

グラフでみる加工食品の 生産・販売・外食等の指標



目 次

< グラフでみる "コロナショック" >

1. 加工食品の生産動向
2. 食品卸売業・食品小売業
3. 外食産業
4. 食料品の物価

< 今月のトピック >

食品製造業の労働生産性



1 加工食品の生産動向 <グラフでみる"コロナショック">

食品需給研究センターでは、食品製造業の月次生産動向について、調査・分析業務（農林水産省「食品産業動態調査」）として実施しています。

ここでは、加工食品の調査対象のうち、特に今般の新型コロナウイルス感染症の影響が大きい品目の生産動向（増減率、速報値）についてとりあげます。

なお、詳細は、<http://www.fmrict.or.jp/stat/stat.html#seizou>

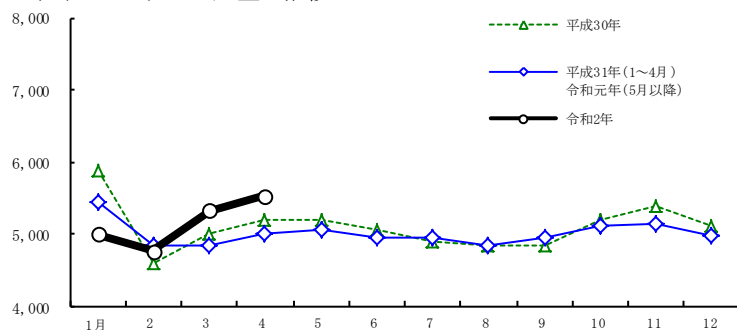
「食品製造業の生産動向」をご覧ください。

○ ちくわ

生産量 対前年同月比

4月 10.5% 増加

(t) ちくわ 生産量の推移

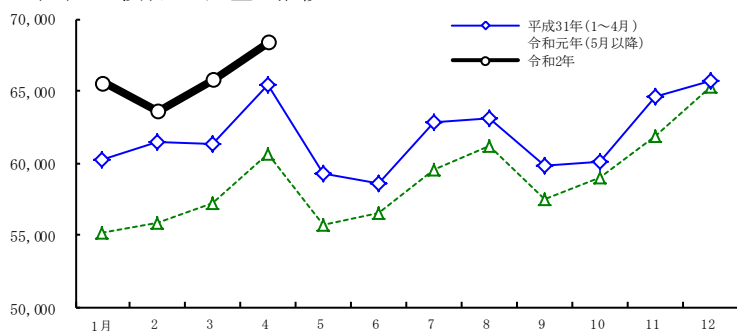


○ 漬物

生産量 対前年同月比

4月 4.5% 増加

(t) 漬物 生産量の推移

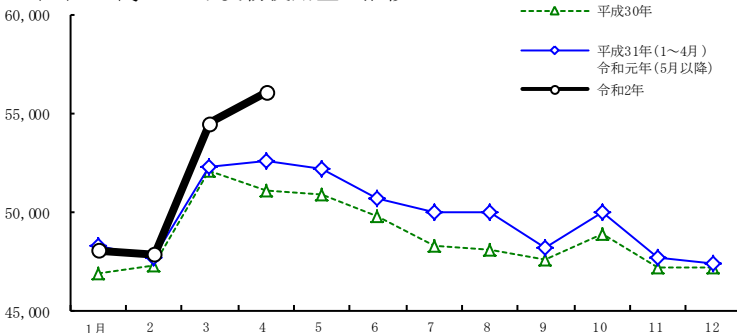


○ 食パン

小麦粉使用量 対前年同月比

4月 6.7% 増加

(t) 食パン 小麦粉使用量の推移

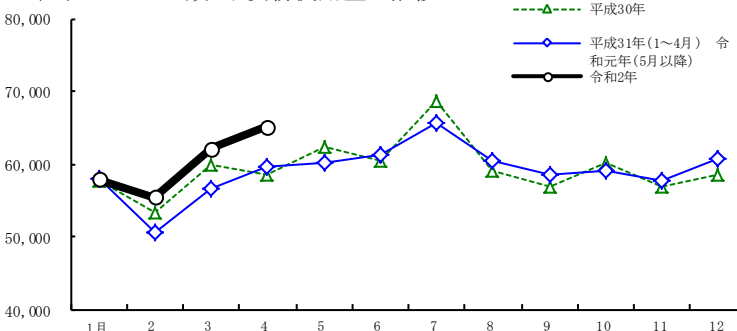


○ 生めん類

小麦粉使用量 対前年同月比

4月 9.4% 増加

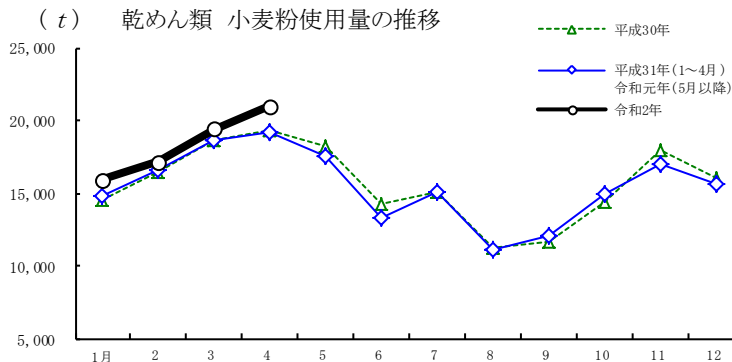
(t) 生めん類 小麦粉使用量の推移



1 加工食品の生産動向 <グラフでみる"コロナショック">

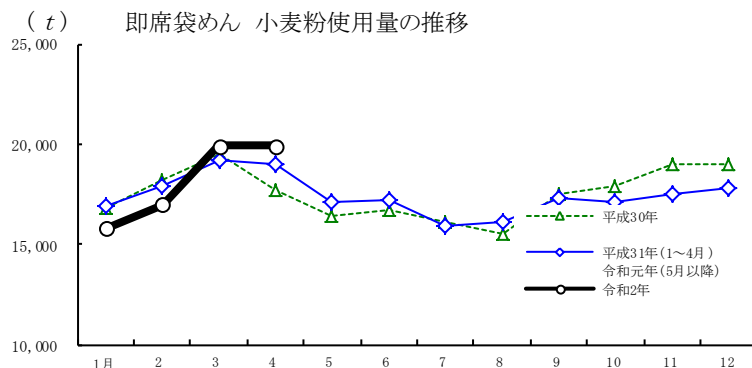
○ 乾めん類

小麦粉使用量 対前年同月比
4月 9.2% 増加



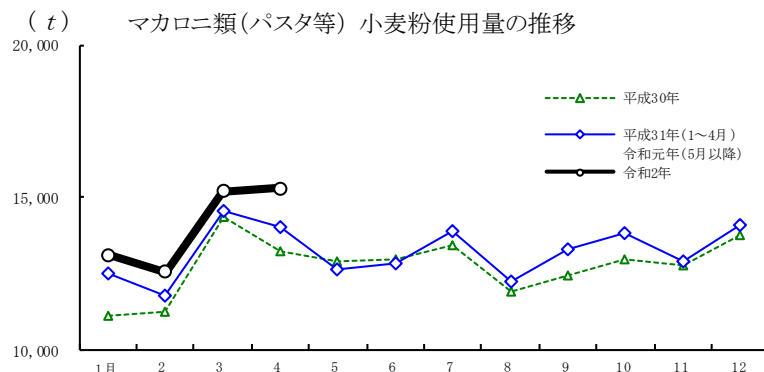
○ 即席袋めん

小麦粉使用量 対前年同月比
4月 4.8% 増加



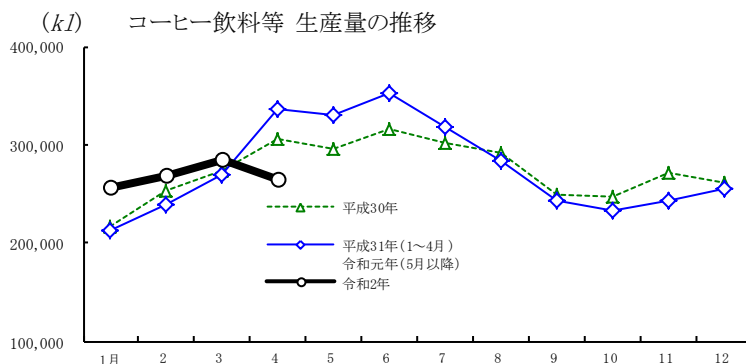
○ マカロニ類

小麦粉使用量 対前年同月比
4月 9.2% 増加



○ コーヒー飲料等

生産量 対前年同月比
4月 21.2% 減少

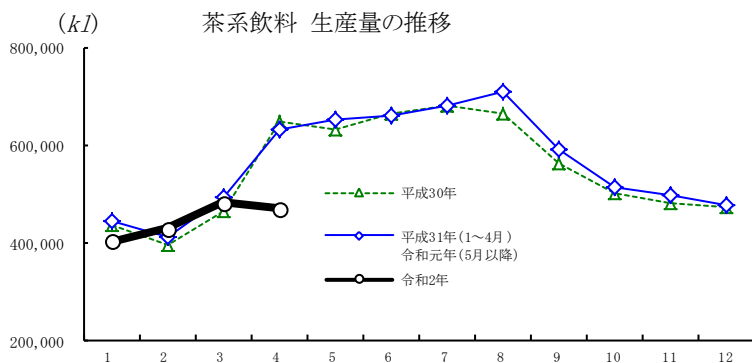


1 加工食品の生産動向 <グラフでみる"コロナショック">

○ 茶系飲料等

生産量 対前年同月比

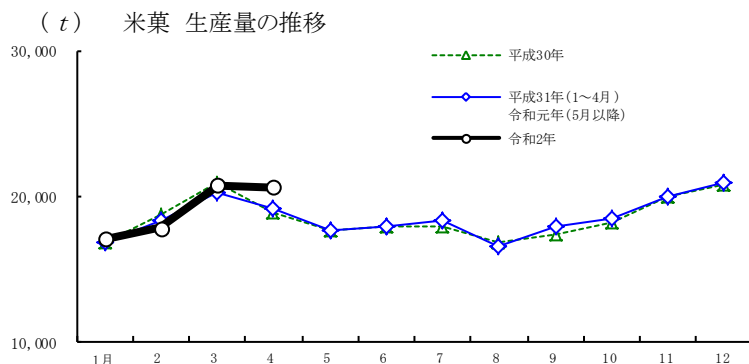
4月 25.6% 減少



○ 米菓（せんべい等）

生産量 対前年同月比

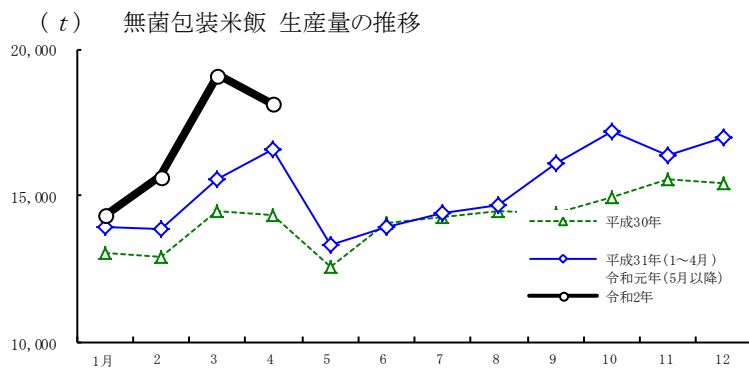
4月 7.6% 増加



○ 無菌包装米飯

生産量 対前年同月比

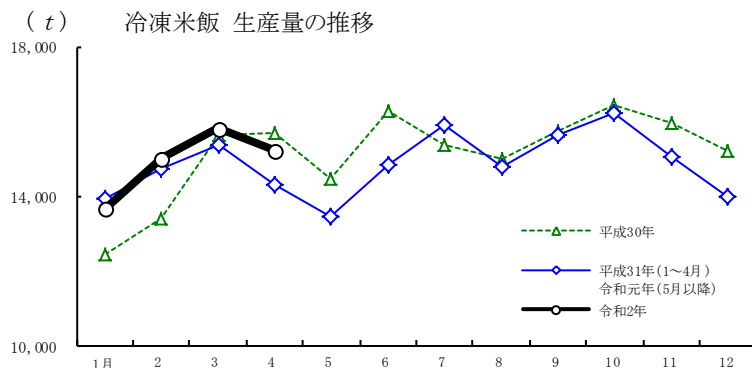
4月 9.3% 増加



○ 冷凍米飯

生産量 対前年同月比

4月 6.4% 増加



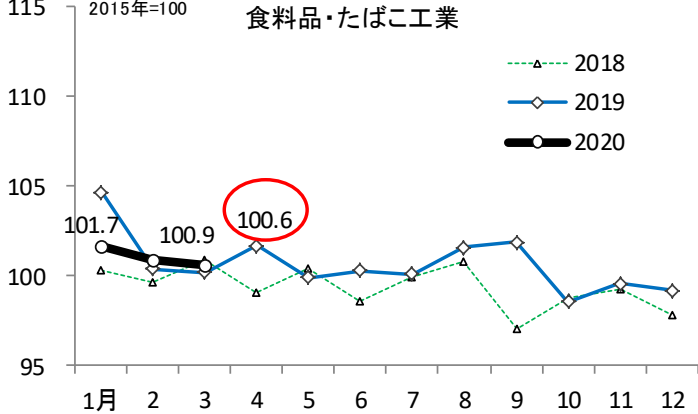
<参考> 食料品・たばこ工業の生産動向
 <経済産業省「鉱工業生産指数」より>

○ **食料品・たばこ工業**

生産指数 対前年同月比

3月 0.4% 上昇

※経済産業省「鉱工業生産指数」は、鉱工業製品を生産する国内の事業所における生産、出荷、在庫に係る諸活動の統計。食品製造業の月次の生産動向について、みることができます。



資料：経済産業省「鉱工業生産指数」

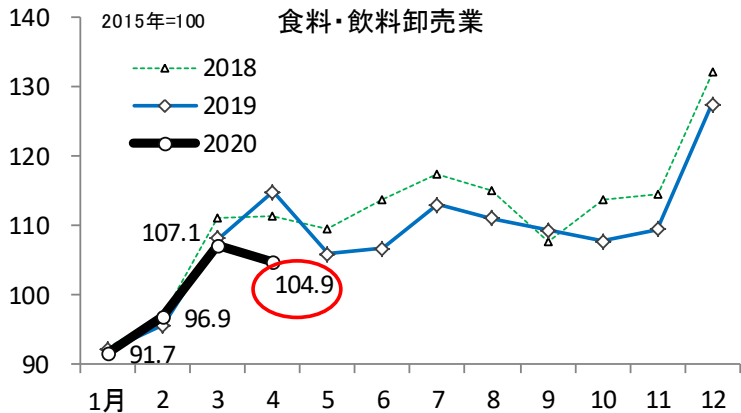
2. 食品卸売業・食品小売業 <グラフでみる"コロナショック">

○ **食料・飲料卸売業**

売上高 対前年同月比

4月 8.7% 減少

経済産業省「商業販売統計」は、全国の商業を営む事業所及び企業の販売活動の統計。具体的には、卸売業、小売業及び小売業の業態別（スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の飲食料品都等の売上高（月次速報）について、みることができます。

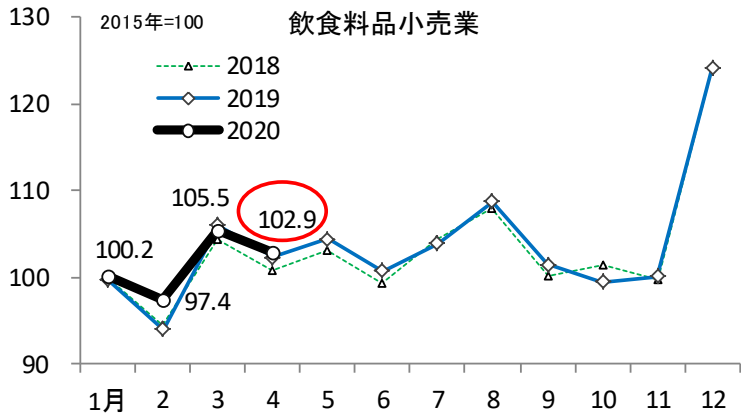


資料：経済産業省「商業販売統計」

○ **飲食料品小売業**

売上高 対前年同月比

4月 0.6% 増加

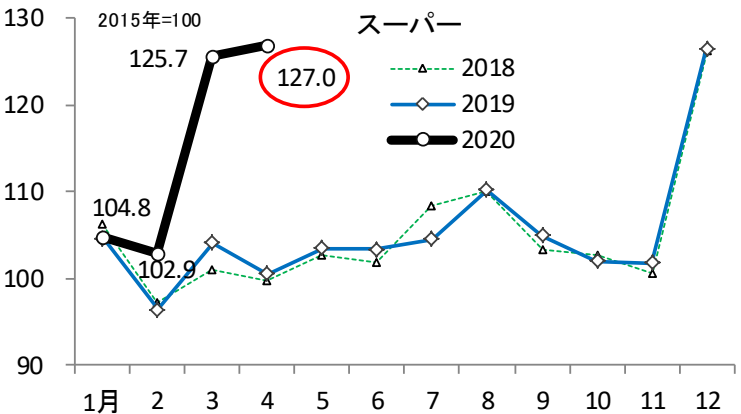


資料：経済産業省「商業販売統計」

○ **スーパー**

飲食料品売上高 対前年同月比

4月 26.3% 増加



資料：経済産業省「商業販売統計」

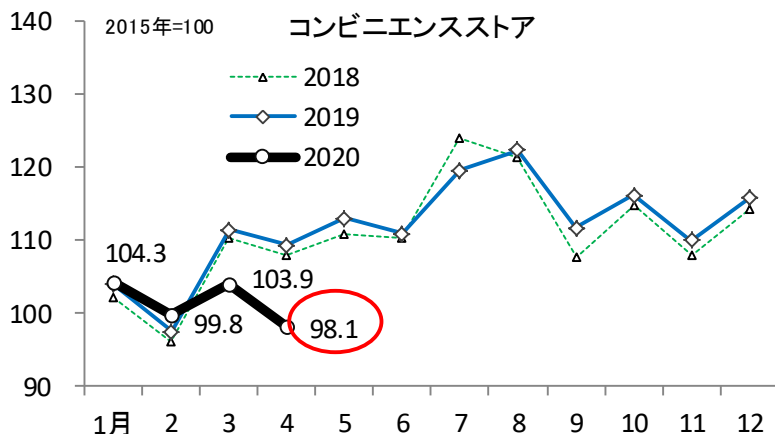
注：飲食料品の売上高

2. 食品卸売業・食品小売業 <グラフでみる"コロナショック">

○ コンビニエンスストア

FF・加工食品売上高 対前年同月比

4月 10.3% 減少



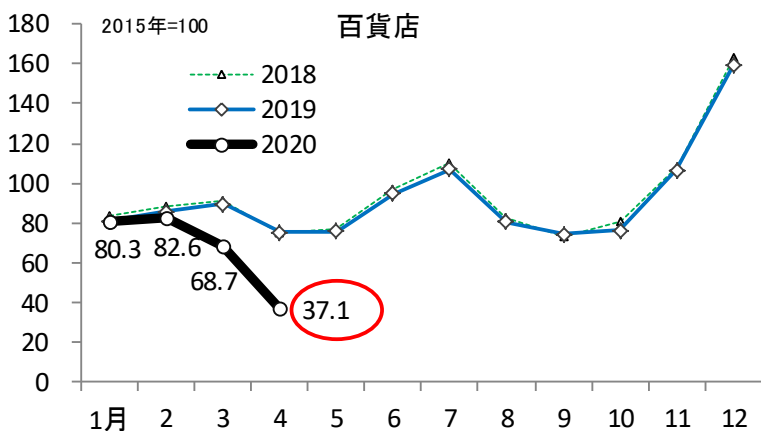
資料：経済産業省「商業販売統計」

注：FFと加工食品の売上高

○ 百貨店

飲食料品売上高 対前年同月比

4月 50.6% 減少



資料：経済産業省「商業販売統計」

注：飲食料品の売上高

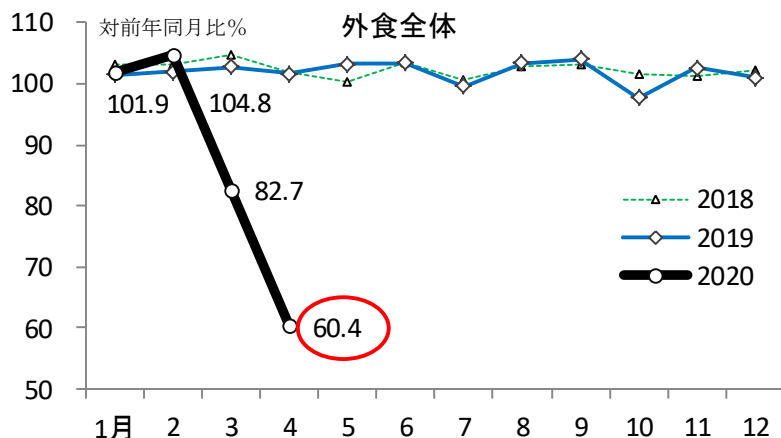
3. 外食産業 <グラフでみる"コロナショック">

一般社団法人日本フードサービス協会の「外食産業市場動向調査」は、外食チェーン企業203社約3万9千店の売上高等についての業態別の統計。直近の売上動向がわかります。

○ 外食全体

全店売上高 対前年同月比

4月 50.4% 減少



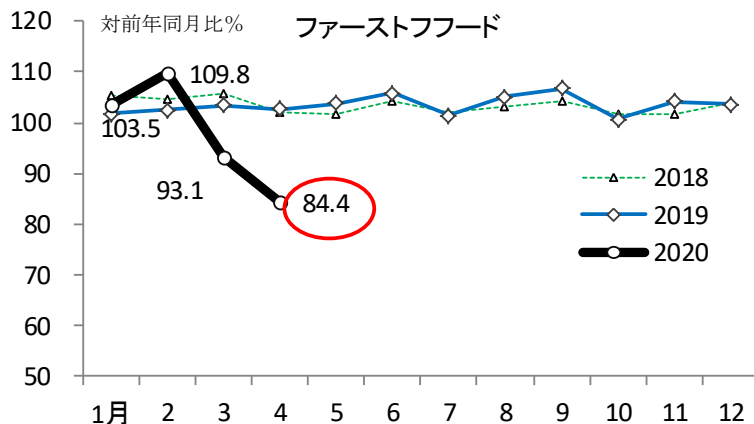
資料：日本フードサービス協会

3. 外食産業 <グラフでみる"コロナショック">

○ ファーストフード

全店売上高 対前年同月比

4月 **15.6%** 減少

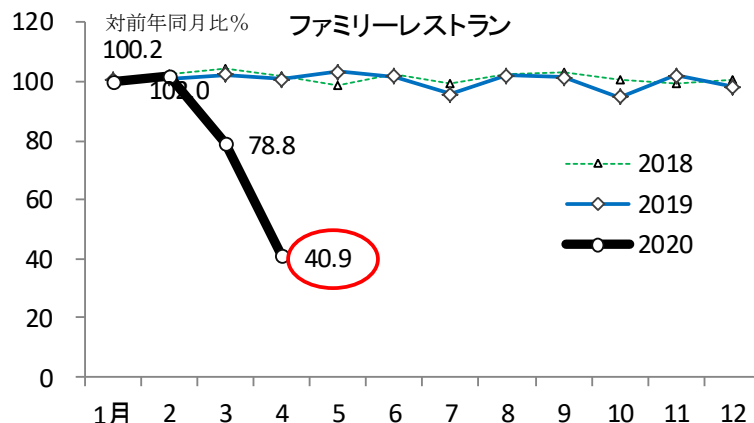


資料：日本フードサービス協会

○ ファミリーレストラン

全店売上高 対前年同月比

4月 **59.1%** 減少

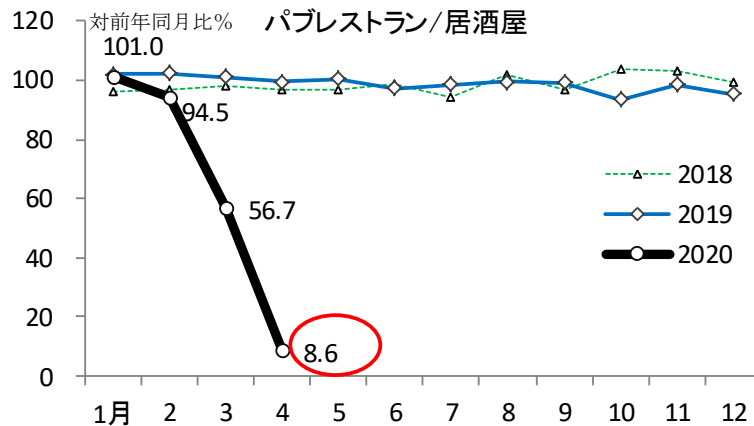


資料：日本フードサービス協会

○ パブレストラン/居酒屋

全店売上高 対前年同月比

4月 **91.4%** 減少

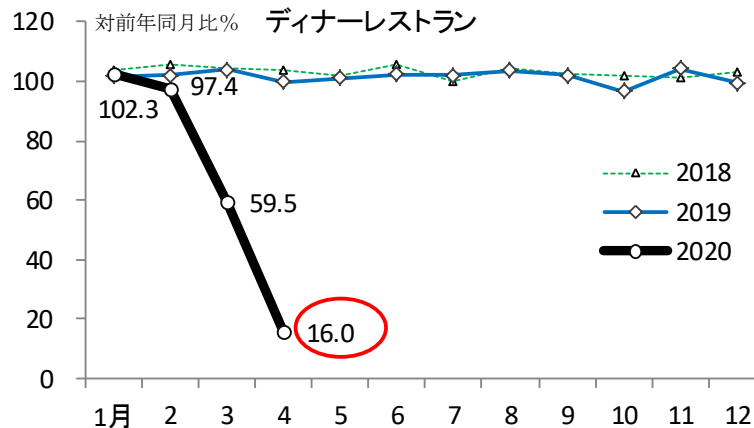


資料：日本フードサービス協会

○ デイナーレストラン

全店売上高 対前年同月比

4月 **84.0%** 減少



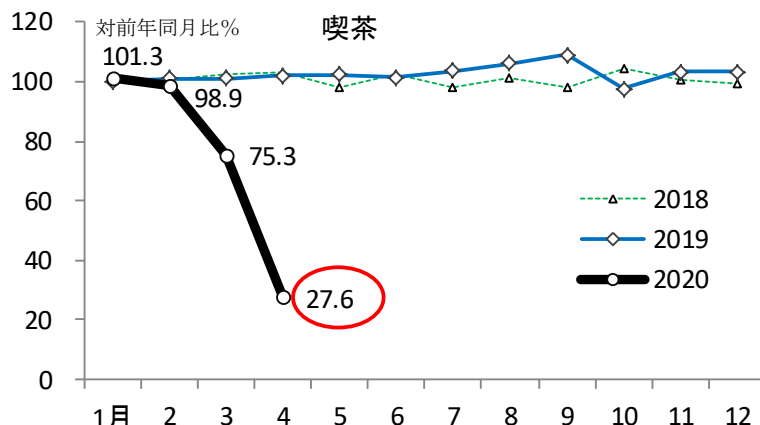
資料：日本フードサービス協会

3. 外食産業 <グラフでみる"コロナショック">

○ 喫茶

全店売上高 対前年同月比

4月 72.4% 減少



資料：日本フードサービス協会

4. 食料品の物価

○ 企業物価指数

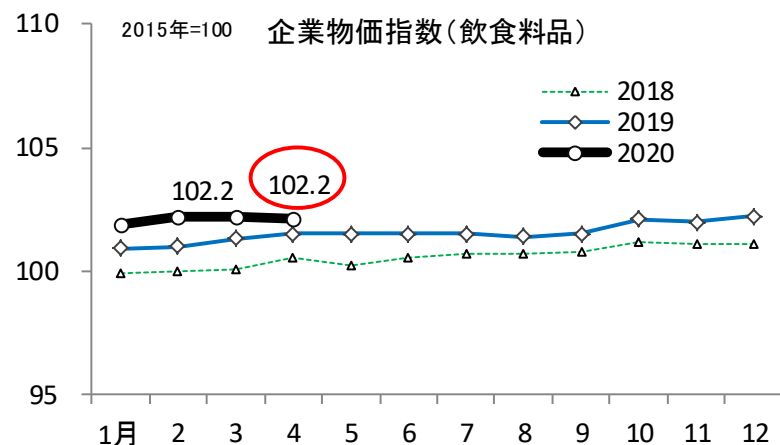
企業物価指数は、企業間で取引される品質を固定した商品（財）の価格を継続的に調査し、現在時点の価格を、基準時点（2015年）の価格を100として、指数化したもの。

このうち、食品製造業（飲食料品）の出荷販売価格について、みることができます。

○ 企業物価指数 （飲食料品）

飲食料品 対前年同月比

4月 0.6% 上昇



資料：日本銀行「企業物価指数」

○ 消費者物価指数

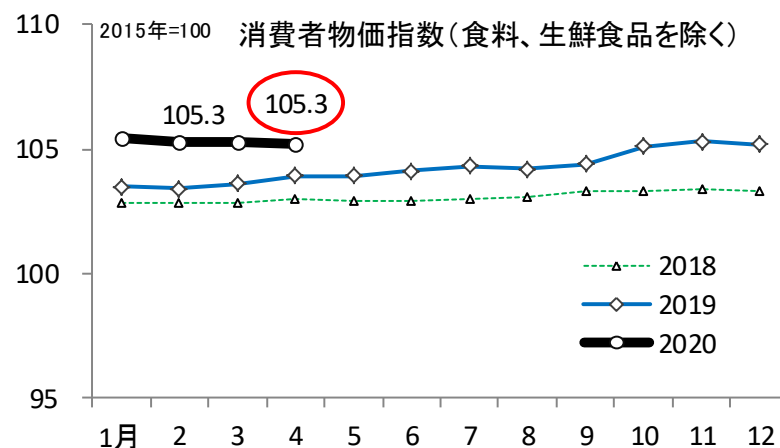
消費者物価指数は、全国の世帯が購入する財及びサービスの価格変動を総合的に測定し、物価の変動を時系列的に測定するもの。

このうち、食料（生鮮食品を除く）について、みることができます。

○ 消費者物価指数 （食料、生鮮食品を除く）

食料 対前年同月比

4月 1.3% 上昇



資料：総務省「消費者物価指数」

(3) 食品製造業の労働生産性

平成29年の食品製造業の労働生産性は、対前年比1.3%とわずかに増加

平成 29 年の食料品製造業における従業者 1 人当たりの付加価値額は、1,006 万円で対前年比 1.3 % とわずかに増加した。これは平成 29 年の付加価値額が対前年比 2.1 % とわずかに増加したものの、従業者数の対前年比が 0.7 % と前年並みとなり、また、原材料使用額等が同 2.3 % とわずかに増加したことが一因とみられる。

4 区分業種類型別にみると、従業者 1 人当たりの付加価値額は、素材型が 1,762 万円で対前年比 6.6 % とかなりの程度増加し、前年に比べて改善している。

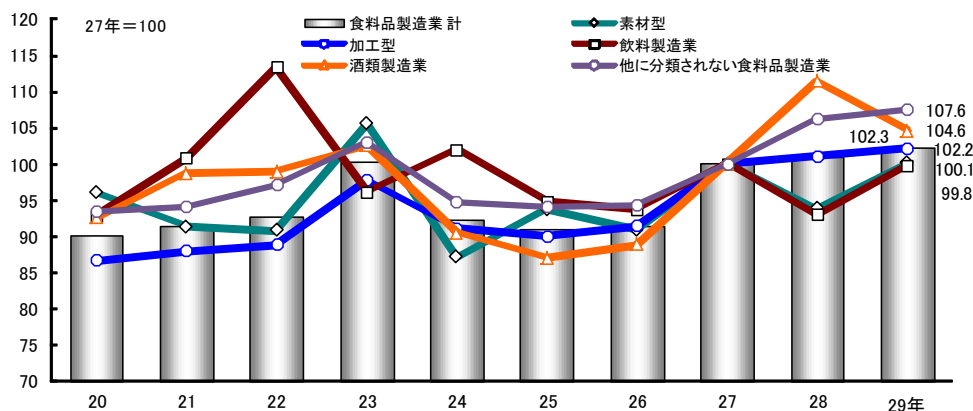
加工型は 802 万円で同 1.1 % とわずかに増加した。

飲料は 2,209 万円で同 7.4 % と前年に比べてかなりの程度増加した。

酒類は 3,409 万円で同 ▲ 6.1 % と前年に比べかなりの程度減少した。

近年、食品製造業の労働生産性は総じて低迷しているといえる。この要因として、原材料調達コストや物流コストの増加があげられる。特に輸入食料品や国産農林水産物の不作・不漁など供給不安定な状況が続いている。一方、食品小売業や外食産業等の需要においては価格競争の激化から、販売単価や売上数量の低迷が課題となっている。

図 食品製造業の従業者 1 人当たり付加価値額指数の推移



資料：経済産業省「工業統計」、「経済センサス-活動調査」より作成

注 1：1 人当たり付加価値額 = 付加価値額 ÷ 従業員数

注 2：食品製造業計には、飲料及び酒類を含む。

注 3：付加価値額（経済産業省「工業統計」参照）

（従業者30人以上）付加価値額 = 製造品出荷額等 + （製造品年末在庫額 - 製造品年初在庫額） + （半製品及び仕掛品年末価額 - 半製品及び仕掛品年初価額） - （消費税を除く内国消費税額 + 推計消費税額） - 原材料使用額等 - 減価償却額

（従業者29人以下）粗付加価値額 = 製造品出荷額等 - （消費税を除く内国消費税額 + 推計消費税額） - 原材料使用額等

表 食品製造業の従業者 1 人当たり付加価値額

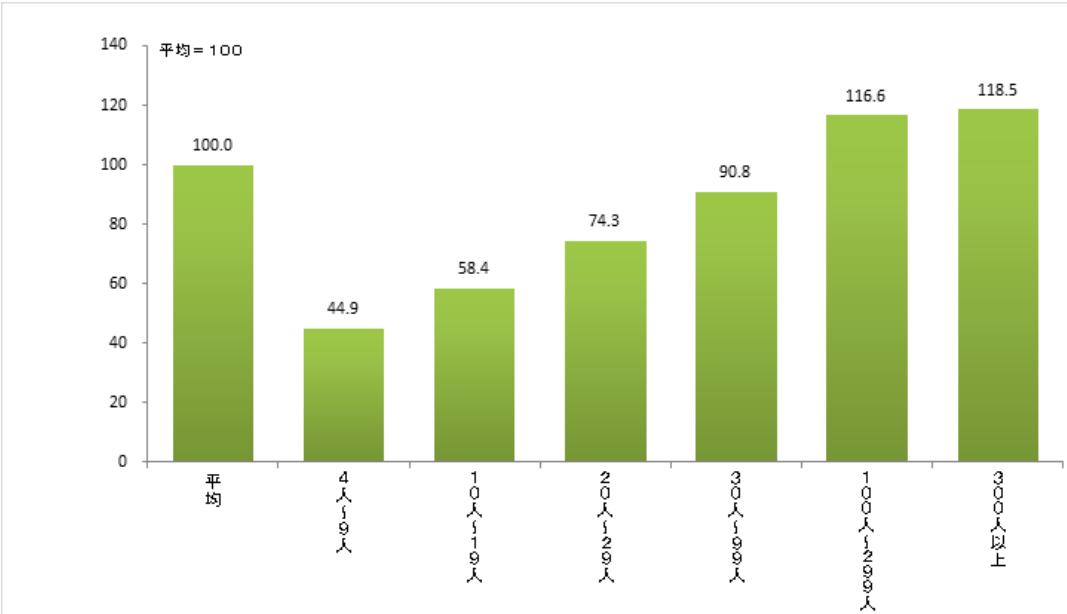
単位: 万円、%														
区分・年次		金額						対前年増減率						
		24年	25年	26年	27年	28年	29年	24年	25年	26年	26年	27年	28年	29年
業 種														
食料品製造業		907	894	899	983	992	1,006	▲ 8.0	▲ 1.4	9.4	0.6	9.4	0.9	1.3
		1,533	1,650	1,599	1,760	1,652	1,762	▲ 17.4	7.6	10.0	▲ 3.1	10.0	▲ 6.1	6.6
素材型														
調味料製造業		1,451	1,521	1,495	1,541	1,518	1,634	▲ 14.7	4.8	3.1	▲ 1.7	3.1	▲ 1.5	7.6
糖類製造業		2,030	2,346	2,132	2,451	2,388	2,471	▲ 24.5	15.6	15.0	▲ 9.1	15.0	▲ 2.6	3.5
精穀・製粉製造業		1,240	1,485	1,347	1,760	1,520	1,710	▲ 41.4	19.8	30.7	▲ 9.3	30.7	▲ 13.6	12.5
動植物油脂製造業		2,116	2,083	2,117	2,418	2,076	2,038	22.8	▲ 1.5	14.2	1.6	14.2	▲ 14.1	▲ 1.8
加工型		715	706	718	785	793	802	▲ 6.7	▲ 1.2	9.3	1.6	9.3	1.1	1.1
畜産食料品製造業		958	943	959	1,080	1,077	1,039	▲ 9.6	▲ 1.6	12.5	1.7	12.5	▲ 0.2	▲ 3.5
水産食料品製造業		603	602	622	694	645	676	▲ 10.4	▲ 0.2	11.6	3.4	11.6	▲ 7.1	4.7
野菜・果実缶等製造業		557	560	544	564	576	614	▲ 10.4	0.6	3.6	▲ 2.9	3.6	2.1	6.5
パン・菓子製造業		872	872	905	981	976	983	▲ 6.0	0.0	8.4	3.8	8.4	▲ 0.5	0.7
その他の食料品製造業		556	538	533	572	619	631	▲ 2.3	▲ 3.3	7.5	▲ 1.0	7.5	8.1	2.0
飲料		2,259	2,101	2,077	2,214	2,058	2,209	6.1	▲ 7.0	6.6	▲ 1.1	6.6	▲ 7.1	7.4
清涼飲料製造業		3,221	2,966	2,906	3,181	2,846	3,098	6.6	▲ 7.9	9.5	▲ 2.0	9.5	▲ 10.5	8.8
茶・コーヒー製造業		787	739	735	770	810	850	▲ 3.2	▲ 6.1	4.9	▲ 0.5	4.9	5.2	4.8
酒類		2,951	2,837	2,898	3,259	3,631	3,409	▲ 11.7	▲ 3.9	12.5	2.2	12.5	11.4	▲ 6.1
酒類製造業		2,951	2,837	2,898	3,259	3,631	3,409	▲ 11.7	▲ 3.9	12.5	2.2	12.5	11.4	▲ 6.1
他に分類されない食料品製造業		783	778	780	827	878	890	▲ 8.1	▲ 0.7	6.0	0.3	6.0	6.2	1.3

資料：経済産業省「工業統計」、「経済センサス-活動調査」より作成

食品製造業の労働生産性は、総じて、従業員規模が大きいほど高い

平成 29 年の食品製造業の労働生産性は、経済産業省「工業統計（産業編）」によれば、従業員数の規模が大きくなるにつれて高くなっている。ただし、「100 人～299 人」と「300 人以上」の規模間において、このような労働生産性の従業員規模による差異は、小さくなっている。

図 食品製造業の生産性（平成29年、従業員規模別）



資料：経済産業省「工業統計」より作成